

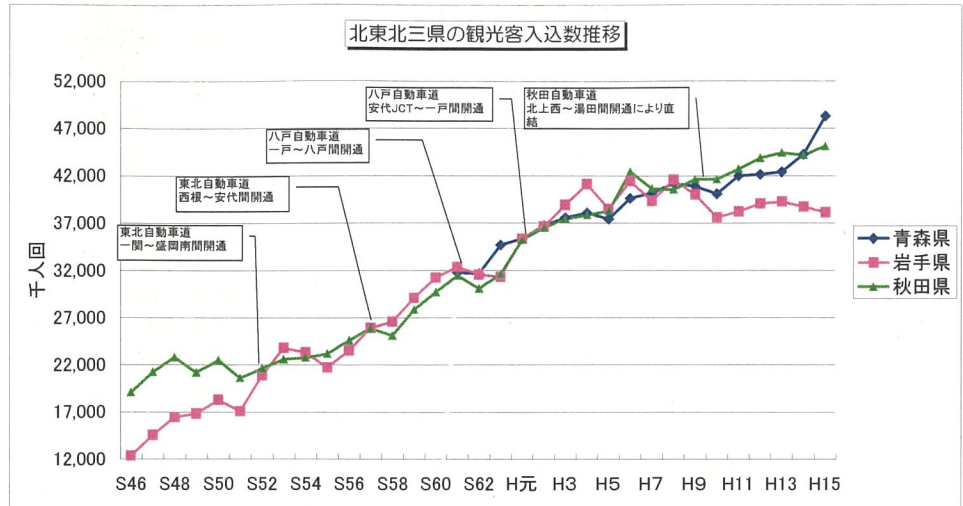
データウォッチング

本県の社会資本整備の状況等をデータで見るコーナー。今回は、道路整備と観光客の入込み数について、みてみましょう。

右の表をご覧ください。
昭和46年頃の岩手県の観光客の入込数は、12,349千人回で、秋田県の入込数を下回っていましたが、昭和52年の東北自動車道一関～盛岡南間の開通を契機に、増加しております。

また、高速道路の整備の他にも東北・上越新幹線の開業(S57)や花巻空港の2,000m滑走路の供用開始(S58)など、高速交通網の整備とともに、北東北三県の観光客の入込数が増加していることが読み取れます。

この他、東北縦貫自動車道が整備されたことにより、鮮度が命の農作物をいち早く首都圏の市場へ出荷することが可能となり、日本一の品質・出荷量を誇る産地(例えば、胆沢町のピーマンや西根町のほうれんそう)になるなど、地域経済に大きく貢献しています。



出所:各県統計資料
注:青森県の観光客入込数は、昭和61年度からのデータ。それ以前の統計データは、なし。

土木建築作品

県民に親しまれている文化的価値の高い土木建築作品を紹介するコーナー

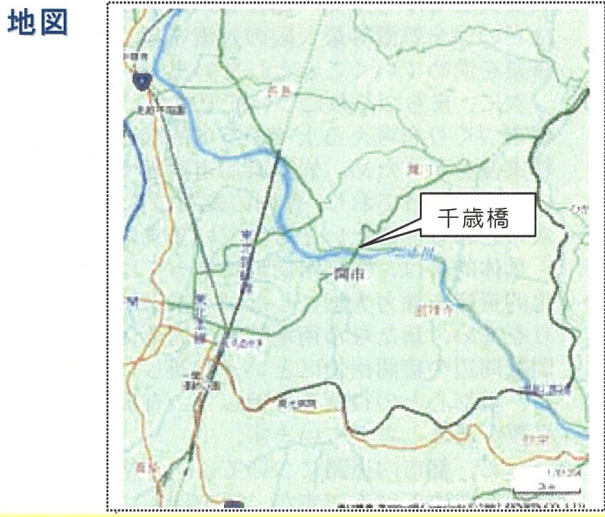
Vol.3 千歳橋
CHITOSE-BASHI

岩手県には南北に流れる大河北上川があり、北上平野を東西に分割しています。四十四田ダム湖にかかる岩姫橋(盛岡環状線)から、宮城県に程近い北上川橋(花巻藤沢線)までのおよそ180kmの間に、東西の交流や物流を一手に担ってきた県管理の橋梁が26あります。これらの橋群が、昔から人々の暮らしを支え、また人々に愛され、岩手の歴史を築いてきた大事な建築物であるといえるのではないのでしょうか。その中のいくつかをシリーズで紹介します。

【千歳橋】

狐禅寺狭窄部の入口にあり、明治32年(1899)舟橋で架橋されました。兩岸部は木橋で中央部に舟を13艘つなぎ止め、その上に橋脚、さらに橋板を敷いていました。増水時には舟橋だけを川に浮かばせる仕組みです。その後流失と補修が相次ぎ、特に、戦後22年のカサリン台風、翌年のアイオン台風、24年のキティ台風により三たび流失したことから、昭和26年全国で2つ目となる潜り橋(潜水式橋梁)の架橋となりました(増水により年間20~30日間通行止めとなる)。現橋は昭和53年に完成し、やっとのこと増水による通行止めから解放されることとなりました。

形式:ワーレントラス
橋長(m)×巾員(全巾):434.10×6.00
架設年度:昭和53年
路線名:主要地方道一関大東線



「いわての土木遺産100選」((財)岩手県土木技術振興協会発行)